

藪蕎麦

矢島勝昭

●「おひさしぶりで・・・」。声は雑司が谷藪蕎麦主人戸張喜惣次、のれんからのぞいた顔は蜀山人こと狂歌師太田南畝。文化4(1808)年6月のことだ。鬼子母神のやや東に位置するこの店の蕎麦は「藪の内流茶道」の茶にあやかっか甘皮を使った淡緑色で、白い更科蕎麦と区別され、藪の内蕎麦切の名は雑司が谷が発祥とされ繁盛していた。

●蕎麦は注文があって打ち始めるが、なじみの客はお参り前に注文し、帰りに待たずに食べて行く。なかにはお参り後に来て具の天ぷらだけを先に出してもらい酒の肴とする。これもこの店の常連の仕来りだ。主人の喜惣次の名は蕎麦店と一緒に親から継いだもので、本名は富久、仙里という俳号もあり、本職は別にある。日ごろ店は使用人が仕切っていたが、今日は俳諧の師、蜀山人先生や地元の材木商で郷土史家の金子理平次、それに根岸から絵師酒井抱一先生も招き、世情もろもろを肴に一献傾けようという趣向だ。

●「やあ、遅くなりました」金子理平次が駆け込んだ。「蜀山人先生にはお元気でなによりです」。理平次は10年前の地誌「若葉の梢」の上梓にあたり蜀山人には一方ならず世話になった。「お忙しいようすな」と蜀山人。「前書の直しを手がけているところで・・・」理平次は頭をかいた。「昨日私が京橋へ出向いていた折、一茶先生がお参りがてらここへ寄ったそうですよ」。喜惣次が配膳しながら言った。俳人小林一茶はそのころ父親の遺産相続問題で頭を痛めていたので、気晴らしに従者を伴って鬼子母神へお参りに来たのであろう。

●喜惣次の本職は彫金師、といっても町職人とは違い、將軍家お抱えの後藤家に任せ、金銀を素材に小柄や目貫などの細工を得意とし、前にも言ったように絵や俳句をたしなむ文化人でもあった。猪口を置いて蜀山人が懐紙と矢立を取り出し、さ

らさらと筆を流した。「見渡せば麦の青葉に藪のそばきつね狸もここへ喜惣次」。手に取った喜惣次はにんまりうなづいて墨跡を二度三度目でなぞった。蜀山人には別にこんな歌もある。「更級のそばはよけれど高稲荷(高いなり)森(盛りそば)を眺めて二度とコンコン(来ん来ん)」。きつねうどんやたぬき蕎麦がこの頃あったかどうかは知らないが、蜀山人はこのあたりの鬱蒼とした藪になぞらえ狐狸が似合うと思ったのであろう。

●ほととぎすが一声鳴いた。窓を開けると料理茶屋向耕亭の梅林を通った涼風が座敷の空気を一新した。「一声におとは九丁をほととぎす」理平次がつぶやいた。言わずもがな音羽通り南北九丁にかけた句だ。奥座敷の賑わいはまだまだ序の口だ。

●歳月が流れた。文政6(1823)年74歳で蜀山人が他界した。翌年同じく74歳で理平次もあとを追う、さらにまたその翌年喜惣次が続いた。喜惣治の死を悼んで法明寺境内に門人が石碑を建てた。抱一の朝顔の絵に喜惣次の句を添えたもので「籬やくりから龍のやさすがた」と彫られている。その酒井抱一も一年おいて三人の後を追った。文化・文政期、雑司が谷に縁のある文化人が相次いで他界し、風の便りでは小林一茶も喜惣次と抱一の間の年に亡くなったと伝わった。彼岸の蕎麦屋はさぞや賑やかなことだろう。

●やがて雑司が谷の藪蕎麦も向耕亭もいつのころからか跡形も無くなり、春になると主のいない向耕亭の梅林のみが紅白の花をつけ鶯を誘った。理平次は雑司が谷の本浄寺に葬られたとされていたが、現在は墓石も失せて、ただ、安永9(1780)年に小平次・理平次の父子が建てた日蓮供養塔のみが空高く目を引いている。理平次こと直徳の名は幼名直次郎と彫られている。喜惣次の墓は法明寺の隣り真乗院、抱一は築地本願寺に眠る。向耕亭は大鳥神社に生まれ変わった。

●絵本紹介

郷土史入門 雑司が谷いろはかるた

絵本 A4版30ページ・カラー 絵と文・矢島勝明

○47枚のいろはかるたの形式で、楽しく雑司が谷・南池袋の郷土史を紹介

助成 まちづくりバンク運営協議会 (財)としま未来文化財団

11月1日発行予定・定価500円

雑司が谷ルネッサンスの会 南池袋2-39-2

まちづくりニュース

64 2005・10

●企画・発行

池袋南地区まちづくりの会
豊島区都市整備部住環境整備課
☎直通3981-0489/森・中島・和久井

●編集協力

株式会社 エコライン
☎04-7166-6981/小野
豊島区広報印刷物

ぞうじがや

雑司が谷保育園

跡地を防災ひろばに

提言書を提出

池袋南防災まちづくりの会と雑司が谷地区まちづくり協議会は、地元の11町会の協力も得て、平成18年3月に閉園される雑司が谷保育園の跡地を防災的に利用できるように、豊島区に提言書を提出しました。

区への提言は8月11日に行われ、区を代表して水島助役が提言書を受け取られました。

提言書では、保育園跡地を防災的に利用すること、その計画については住民参加で行うことを要望しました。

水島助役からは、雑司が谷小学校跡地の開発などで地域にはご迷惑をおかけしているため、保育園跡地については地元の方々に役立つものにしたいとのお言葉をいただきました。

今のところの予定では、平成18年4月から建物の解体工事を行います。それと並行してひろばの設計を行い、その後工事に入る予定です。平成18年度中には使うことができるようになるでしょう。

検討組織を発足

まちづくりの会では、住民参加で検討を行うた



めに、敷地周辺や地元町会の方にもご参加いただき、「保育園跡地を考える会」を発足させることにしました。最初の会合は10月27日に行う予定です。興味のある方は是非ご参加ください。(問い合わせ先：豊島区住環境整備課)

保育園跡地は約300㎡の面積があります。防災ひろばとしては決して大きくはありません。しかし、作り方によっては災害時に役立つ施設となるでしょう。また、平常時にも親しまれるひろばとしたいものです。すでにいろいろな案が出ていますが、より多くの方々のご意見を伺いながら、住民案を取りまとめたいと思います。

住民案は、今年度中に取りまとめる必要があります。短期集中で検討することになります。

備える

昨年あたりから、各地で大きな地震が相次いでいます。7月には東京でも震度5強を観測する地震があったり、東京湾を震源とする地震もありました。東京直下型や東海・東南海・南海の巨大地震がいつ起きてもおかしくないと言った報道が、テレビや週刊誌をにぎわしています。

確かに地震の危険度は高まっているかもしれませ

ん。しかし、闇雲に地震を恐れることよりは、その時に備えて、ふだんどんな備えをしておくかが大切になります。

今年で3回目となる防災まちづくりイベントは、楽しく学び備えるためのイベントです。防災訓練といとなかなか参加しにくいお年寄りやお子さんでも楽しみながら防災知識を学び、いざと言う時の備えを体験できます。今年はいろいろな遊びもたくさん企画しています。是非おいでください。

楽しく学び備える

第3回 防災まちづくりイベント

日時：2005年11月6日（日曜日）

午前11時～午後2時

場所：南池袋小グラウンド

小雨決行

● 防災スタンプラリー

防災に関係する5つのチェックポイントをまわり楽しみながら防災の訓練ができます。スタンプを5個集めた方には花鉢をプレゼント

- ◇投てき水パック
- ◇防災まちづくりの成果
- ◇煙体験
- ◇ミニポンプ放水
- ◇非常食の試食・試飲

花鉢プレゼント

● お楽しみコーナー

子どもからお年寄りまで楽しめるいろいろな出し物にご注目

- ◇竹で遊ぼう①竹馬
- ◇竹で遊ぼう②かざぐるま
- ◇紙芝居
- ◇雑司が谷いろはかるた
- ◇木工教室
- ◇輪投げ
- ◇民族舞踊
- ◇西アフリカ民族音楽

● 食べ物コーナー

次の食べ物を用意しています。受付でチケットをもらってください

- ◇ソースせんべい
- ◇焼きそば
- ◇ポップコーン

無料チケットプレゼント

● 相談コーナー

- ◇住宅の耐震診断
- ◇悪徳リフォーム

主催：池袋南地区まちづくりの会
雑司が谷地区まちづくり協議会
南池袋一丁目町会・南池袋二三四町会
光和会・池袋東口親和町会・青葉会
雑司が谷一丁目町会
雑司が谷一丁目東部町会・柳下会
東目白本町会・雑司が谷二丁目町会
雑司が谷三丁目町会
南池袋東通り商店会（順不同）

協力：南池袋小学校・PTA・東京音大
川村学園・設計豊島共同組合

事務局：豊島消防署・豊島消防団
豊島区都市整備部住環境整備課（電話3981-0489）

地域の歴史を紙芝居に

まちづくりの会の新しい試み

新しいまちづくり活動

まちづくりの会では、今年度からのまちづくり活動として、紙芝居づくりに取り組むことにしました。しかし何故、まちづくりで紙芝居なのでしょう。

まちづくりの会では、これまで3ヶ所のまちづくり井戸を整備したり、電柱の移設を行って、災害時にも防災活動がしやすいまちづくりを行ってきました。このような施設整備と並行して、会ではこの地区らしいまちづくりは何かを協議してきました。そして、施設整備費のように多額の予算をかけなくても成果を残せるような活動、その成果が目には見えなくとも、人々の心をつなぐことができるような活動へと、路線変更していくことを考えています。

たくさんの残したいもの

手始めにまちづくりの会では、地域で残したいものや大切にしたいもの、改善したいものをあげてみました。そうすると、この地区には沢山の残したいものがあることが、今さらながら確認されました。おそらく豊島区内でも随一の歴史的な資産に恵まれた地域だと言えるでしょう。しかし、それらのものが、まちづくりや私たちの生活に活かされているかを考えると、必ずしもそうではないことにも気が付きました。そして、残したいものが今どんどん失われつつあることも確認されました。

これまでは道端の石にしか見えなかったものが、その歴史を知ることによって、過去に思いをはせる道しるべになるかもしれません。何気なく前を素通りしていた建物から、そこで生きた人々の声や息吹を感じられるようになるかもしれません。知ることは愛着を持つことにつながります。

これらの残したいもの・大切にしたいものを、記録にとどめ、同時に子どもたちをはじめとした地域の方々に知ってもらうにはどうしたらよいかを考えた時、紙芝居というアイデアができたのです。

なぜ紙芝居か

紙芝居をつくるには、脚本を書く人、絵を書く人、読み聞かせる人と言う風にたくさんの方々が協力しないといけません。これまでのようなまちづくりに是不向きだと参加されなかった方々や、まちづくり

活動の時間には忙しくて参加できなかった方々が、紙芝居をつくることを通してご参加いただけるようになるかもしれません。それぞれの人々が、自分でできることを少しずつ協力しあって、紙芝居をつくり、人を集めて上演するというふうには、活動の輪がひろがっていきばいいと思います。

まちづくりの目標の一つには、その活動を通じて地域の人と人の結びつきが強くなることあげられます。そのような人のつながりが、災害が起こった時にも、助け合いなどとして生かされるからです。

この紙芝居づくりが、地域に新たな人の輪をつくるのが期待されます。なんと言っても、この地区は残したいものの宝庫です。紙芝居の題材はたくさんあります。息の長い活動にしていきたいものです。

いろいろな人が集まって

会では紙芝居をつくるにあたって、いろいろな団体に協力をお願いしたり、すでに様々な活躍をされている方にお話を伺っています。一人でも多くの方にご参加いただきたいからです。

そして、地区にはたくさんの達人がいらっしゃることも判ってきました。地区の歴史を題材に小林頭一さんは紙芝居を作られています。また、本誌連載でもおなじみの矢島勝昭さんは雑司が谷いろはかるたを作られています。宮崎紀玖雄さんは影絵劇団をつくって上映活動をされています。そういった達人の方々にもご協力いただきながら、紙芝居をつくっていきたいと思います。

募集 紙芝居づくり人

紙芝居づくりははじまったばかりです。会では地元の皆さんの参加を募集しています。紙芝居づくりに参加してみたいという方、できたものを見たいという方は、事務局までご連絡ください。

事務局：豊島区住環境整備課 担当：森/中島
電話 3981-0489

防災まちづくりイベントで

小林頭一さんの紙芝居と矢島勝昭さんの雑司が谷いろはかるたは、防災まちづくりイベントで見ることができます。是非おいでください。